

## 2 新田川遺跡

所在地: 三條市大字下保内字三方 1 4 7 6 - 1 ほか  
時代: 奈良時代、平安時代

### 遺跡の概要

新田川遺跡は、三條市大字下保内地内にあり、国道 4 0 3 号バイパス道路建設工事に伴い調査を行いました。掘立柱建物、井戸、柵、畑などの跡が発掘されました。また、食器、煮炊具などの土器や貴重な漆製品が出土し、奈良時代と平安時代の村跡であることがわかりました。



発掘された新田川遺跡 (真上から)



発掘された新田川遺跡 (北から)

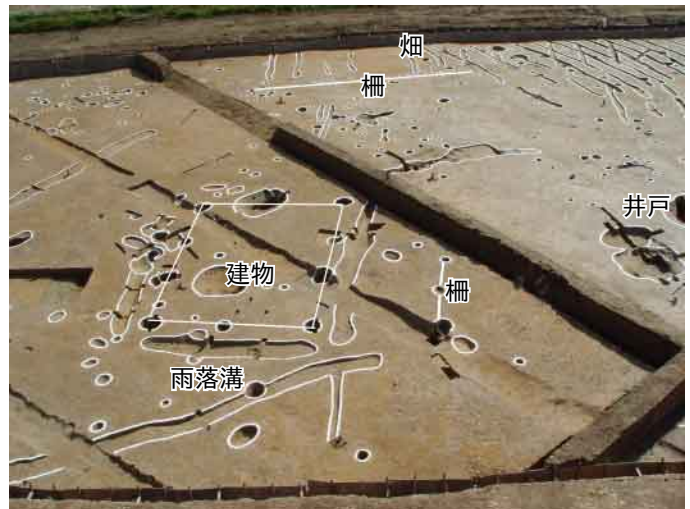
### 発掘された遺構と遺物

遺構 調査区の北側で検出された掘立柱建物は、2 × 3 間の大きさで、三方に雨落溝をもつ建物です。西側に 3 基の柱穴が建物と同じ方向で確認され、建物に付属する風除けに利用した柵と推定しています。南側には、径 2 m を超える円形素掘りの井戸が発掘されています。さらに南東に畑跡がみつかり、畝の方向が建物と同一であることから、居住者の耕地であったと思われる、居住地と耕作地とを区画する柵列も検出されています。出土した食器などから、奈良時代の遺構と考えられます。

調査区中央部付近で検出された井戸は、径約 2.8 m の素掘りでした。平安時代の遺物が出土しています。井戸が検出されていることから、隣接地に建物があったと想像されますが、調査区域内では確認することができませんでした。この周辺でも畑跡がみつかりました。

また、両側に側溝をもつ直線的な道路と思われる遺構が確認されていて、隣接地では平行・直行する方向に畑の畝跡が数多く発掘されています。

その他、調査区南側では、地震による地割れや液状化現象による噴砂の跡が確認されました。



発掘された奈良時代の村



発掘された井戸 (奈良時代)



発掘された井戸 (平安時代)



道路と畑跡



地震の液状化現象による噴砂

遺物 <sup>ほったてばしらたてもの</sup> 掘立柱建物の <sup>あまおちみぞ</sup> 雨落溝から、<sup>すえき</sup> 須恵器の <sup>しよつき</sup> 食器や <sup>はじき</sup> 土師器の <sup>にた</sup> 煮炊き用の <sup>かめ</sup> 甕がまとまって出土しました。食器の形から、おおよそ1250年前ごろの <sup>ならじだい</sup> 奈良時代のものです。また、その周辺からは、須恵器の <sup>しよつき</sup> 食器の底に「×」と刻まれたものが出土しています。同じ地点から発掘された <sup>あみじょううるせいひん</sup> 網状の漆製品は、大変貴重なものです。



発掘された遺物



網状漆製品

調査区中央部付近で検出された井戸からは、<sup>はじき</sup> 土師器や <sup>こくしよどき</sup> 黒色土器の <sup>しよつき</sup> 食器が出土しました。雨落溝などで出土したものに比べると、<sup>すや</sup> 素焼きの <sup>いど</sup> 焼き物で、やや深めのお <sup>わん</sup> 椀の形をしています。おおよそ1100年前ごろの <sup>へいあんじだい</sup> 平安時代のものです。



雨落溝から出土した遺物



「×」が刻まれた食器

その他、<sup>りょう</sup> 漁りに利用した <sup>どせい</sup> 土製の <sup>おもり</sup> 錘が発掘されています。



井戸（奈良時代）から出土した遺物



井戸（平安時代）から出土した遺物

### 新田川遺跡復元イメージ

新田川遺跡の発掘調査により、イメージ図のような <sup>ならじだい</sup> 奈良時代の宅地の景観が復元できます。

建物1棟が建ち、井戸があります。宅地の周辺には畑があり、居住者の作物が作られていたのでしょうか。宅地と耕作地とは、<sup>さく</sup> 柵によって <sup>くかく</sup> 区画されています。

